

---

# 予言の子

タケノコ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

予言の子

### 【Nコード】

N4335U

### 【作者名】

タケノコ

### 【あらすじ】

宮廷占い師は予言した。「ガンスー歴五十五年五月五日に生まれた赤子は大人になるとこの国ルーメを滅ぼすであろう」と。その結果その日に生まれた赤子は虐殺され始める。予言の日に生まれたアベルの運命はどう進むのか。国の命運やいかに。

ここは日本やアメリカ等が無い異世界。名をアスガルドと呼ばれる大陸。ガンスー歴五十五年五月五日に白髪で痩せこけた顔立ちの宮廷占い師サルバが予言した。

「ガンスー歴五十五年五月五日に生まれた赤子は大人になるとこの国ルーマを滅ぼすであろう」

と。ルーマ国では兵士達が予言の日に生まれた子供達を虐殺していた。泣き叫ぶ親達。ついにはガンスー歴五十五年五月五日に生まれた赤子はアベル一人となった。幼子アベルの家にもその災厄が襲って来た。全身に金属の鎧を身につけた兵士に蹴破られるアベル宅のドア。ドアは「ガタガタン」とけたたましい音を発して室内に倒れた。兵士達がどこかと侵入する。リビングにアベル一家の姿があった。アベルの父が妻と子を守るべく右手に包丁を持ち兵士達の前に立ち塞がった。父は

「この子を殺すなら俺から殺せ」

一人の兵士はせせら笑うと

「いいだろう」

と言うと腰にはいていた突剣を抜きアベルの父の胸を貫いた。胸部から血を流しながら絶命する父。アベルの母はアベルをうだきながら悲鳴を上げた。

「イヤー！」

そして数分後アベルを庇ったアベルの母も剣で切られ命を落とした。兵士達が遊んでくれると勘違いしたアベルは無邪気に「キャッキャッ」と喜ぶ。そして兵士の内の一人がアベルに向け剣を振り上げた。

ふっつく

「待ちなさい！」

室内に居た三人の兵士は透き通った声の発生原である壊れた玄関を振り返った。そこには整った顔立ちで紫色の瞳を持ち腰まで伸びた先がウェーブした髪的美少女が立っていた。その少女は高価そうなシルクの服と長いスカートを履いていた。その人物は九歳のルーメ国の王女ラーミアその人だった。膝を付き敬服する兵士達。秀麗な容姿のラーミアは威風堂々と言った。

「これ以上の殺戮は許しません！ この子は私が育てます。あなた達は下がちなさい」

そう言うところラーミアは血で汚れた服を着たアベルを抱き上げた。それ以来アベルは城内で育てられることになった。一年また一年とアベルがラーミアの元で成長していくとラーミアを除いた周囲の間達は自分を陰しく何か嫌なものを見る目であることに気付いた。アベルが五歳になった。そんな時男の子アベルは城の客室に連れ込まれ城に住まう豪華な衣装を着た貴族の男の子達に殴られ蹴られ罵声を浴びせられていた。

「呪いの子め！ お前なんか早く死ねばいいんだ」

「そうだそうだ。早くくたばれ！」

痛みで鳴咽を漏らすアベルは倒れ悔しさで泣いていた。

「やめなさい！」

貴族の男の子達は声のした方に視線を向ける。そこには腰に手を当て憤うった美しい容姿のラーミアが立っていた。そして貴族の男の子達はバツが悪そうな顔で言い訳した。

「王女様。僕達はこの国の災いを取り除こうとしていたのです」

ふっづく

ラーミアは言い訳をした貴族の男の子の頬を平手打ちした。ラーミア荒げた声音で言った。

「この子は私の子です！ 乱暴するなら私を殴りなさい！」

貴族の男の子達は面食らってその場から足早に逃げ去った。ラーミアは泣くアベルの身を起こし

「あなたは勇敢でしたよ。たった一人でよく頑張りましたね。とても雄々しきことですよ」

アベルはラーミアに抱き着き泣いた。そして時は流れアベルは十歳にラーミアは十九歳になった。アベルは十歳になると兵士に志願した。決めたのだ。強くなりたいと。ラーミアを守るようになりたいと。そしてまた五年の歳月が過ぎた。一人娘のラーミアを残し王と妃は逝去した。そこで大臣の筆頭であるルードルは自身の兵士を動かし軍権を掌握しラーミアを傀儡の君主にした。そして二年間ルードルは高い税を徴収し民を困窮させ国を疲弊させた。アベルは日夜行った鍛練と兵法の勉強のお陰で頭角を表し若くして將軍の一人に抜擢された。私服を肥やすルードルはますます自国を陥れた。女子トイレの中でラーミアとアベルは話していた。ラーミアは悲しそうな声で言った。

「アベル、ルードルの手下の目が光っていて私はこんな所でしか本音を話せません。私に実権は無く、ルードルが国を後ろから操っています。信用できるのはあなたしかいないのです。どうか私を助けはくれませんか？」

トイレの個室の狭い石畳に膝を着いていたアベルは

「かしこまりましたラーミア様。ルードルを僕が討ちます」

つつづく



終

ここは女王ラーミアの部屋の何倍もあるルードルの自室。ルードルがベットで裸で全裸の女達を可愛がっているとルードルの部屋の扉がノックされた。ルードルは

「誰だ、こんな夜更けに。鬱陶しい」

ルードルはベットに素っ裸の二人の美女を残しバスローブを着てドアの鍵を外し扉を開けた。そこには鎧兜を身につけたアベルが居た。アベルは声だけに

「悪臣ルードル、女王の命によりそなたを切る！」

アベルは腰にはいた剣を引き抜きルードルに切り掛かった。ルードルは自室のちょうど品や花瓶等をアベルに投げ付けながら部屋の奥へと退散する。ベットの女達はシートで肌を隠しながら悲鳴を上げる。ルードルも「誰か！ 助けてくれ！」と叫ぶ。しかし巡回の兵士も衛兵もアベルが昏倒させているため救援には来ない。アベルは部屋の隅でうずくまり「嫌だ！ 死にたくない！」と嘆く。ルードルの首を切り落とした。そして後に城門にルードルの首が吊され、ラーミアは実権を取り戻し新たに国を興し国名をアベルと変え大將軍にアベルを任じた。アベルは大臣のルードルを殺す事でサルバの予言通りルーメ国を滅ぼしたのだった。国名は功績の大きいアベルの名をとって命名された。

〜おしまい〜

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4335u/>

---

予言の子

2011年7月2日20時27分発行